

ね じ

ねじの生産は、平成 14 年から回復基調に入り、平成 15 年も増加基調で推移した。大口需要家である自動車業界の好調、さらに他のユーザー業界での生産設備及び輸出の増加などが大きい。

しかし需要家のコスト・ダウンの要求が厳しく、線材の値上げを製品価格に転嫁できず、採算状況は、依然として厳しい状況にある。さらに、16 年春から大幅な線材の値上げがあり、前回の線材値上げの価格転嫁が実現していない企業が多い中、値上げを価格に転嫁することができないかが懸念材料となっている。

製品の概要 ねじは、機械や建築の構造物などの締め付け用具として幅広く使用されている。品目としては、ボルト、ナット、小ねじ、木ねじに分類され、リベット、座金なども含まれる。種類は、形状、材質、長さなどにより数十万種類になる。

ねじの主な製造方法は、「冷間鍛造」と「熱間鍛造」に分かれる。冷間鍛造は線材を原材料とし、常温で圧造した後、転造、熱処理などの後処理加工をする方法で、大量生産向きに適しており、主に、自動車、建築、弱電に使われており、ボルト、ナットなどのねじ生産の主流を占めている。一方、熱間鍛造は、棒材を高温で過熱した状態で形成加工する方法で、大物ねじの少量生産向きに適しており、土木、造船、建設機械などに使用されている。

業界の概要 冷間鍛造メーカーは、大阪市東成区や東大阪地域に多く、熱間鍛造メーカーは大阪市西区の九条地域に多く立地している。

大阪府の平成 13 年のねじの出荷額は 1,610 億円、対全国比 20.1%、従業者数は 7,907 人、対全国比 20.6%、事業所数は 579、対全国比 28.5%である（従業員 4 人以上の統計、大阪府『大阪の工業』、経済産業省『工業統計表（産業編）』）。大阪は、全国一の産地であり、たとえば、ねじの主流を占める「ボルト・ナット」でみると第 2 位の産地である愛知県の出荷額の 1.6 倍、数量では 2.6 倍となっている（経済産業省『工業統計表（品目編）』）。

社団法人日本ねじ工業協会によると、受注量の多い産業は、自動車が最も多く、ついで家電、機械、建設である。売上規模の大きい企業は、自動車産業への依存度が高いとのことである。

生産は増加 社団法人日本ねじ工業協会の資料からねじの全国生産動向をみると、平成 14 年から生産は回復基調に入り、15 年は、数量、金額とも増加しており、数量の対前年比伸び率は 2.9%、同様に、金額の対前年比伸び率は 3.0%となっている。

企業ヒアリングから数量、金額とも増加したのは、自動車、機械、建設、輸出の増加が大きく寄与している。特に自動車が好調であったのが大きいとのことである。好調な自動車でもコスト・ダウンの要求が厳しく、原材料価格となる線材価格の値上げを製品価格に転嫁することが難しい環境にある。他の機械向けの受注条件も同様な環境にある。

輸出は増加 財務省貿易統計によると平成 15 年の輸出実績は、数量では 19 万 8,620 トン、金額では 1,553 億 744 万円で、前年比率は数量で 8.7%、金額で 2.1%の伸び率となっている。金額が微増にとどまったのは為替変動の影響が大きいためと思われる。

数量の増加は、主に仕向け先の米国向けが前年比 6.0%の増加と特に中国向けが前年比 68.9%の増加によるものである。主な輸出品目はボルトとナットであり、この 2 品目で輸出数量の 75.3%を占めている。

輸入も急増 同じく財務省貿易統計によると平成 15 年の輸入実績は、数量で 15 万 2,645 ト

ン、金額では427億4,829万円で、前年比率で見ると数量で20.0%の増加、金額で11.2%の増加となっている。数量、金額ともに前年を大幅に上回っており、過去最高を更新している。

仕入先別では、1位の中国が7万4,545トン、114億8,722万円で、シェアはそれぞれ48.8%、26.9%である。前年比率は数量で24.1%増、金額で26.4%増といずれも大幅な増加となっている。2位の台湾は5万5,367トン、110億4,483万円で、シェアはそれぞれ36.3%、25.8%である。前年比率で見ると数量で17.0%増、金額で19.7%増と中国と同様に大幅な増加となっている。中国と台湾両国で輸入のシェアは数量で85.1%、金額で52.7%でほとんどが両国からの輸入である。

輸入が急増したのは、日本ねじ工業協会によるとコスト競争力から海外の安いねじ部品を使う動きが一段と強まったことと、品質が向上したことをあげており、今後ますます、この動きは強まるものとみられる。

採算は依然厳しい 企業ヒアリングによると生産が増加している企業は多いが、単価値下げの要求が厳しく、生産量の増加ほど売上高が増加している企業は少ない。むしろ、原材料の値上げが収益を圧迫し、企業業績の好転している企業は少ないのではないかということである。

また、大量生産の汎用品は、中国や台湾などの価格の安い輸入品と競合しており、価格競争は激しくなっている。輸入品と競合する汎用品メーカーは、価格面で厳しい状況にあり、企業業績の好転が期待できず、経営的に苦しい企業が多い。

今後の見通し 汎用品は輸入品との競争にさらされており、価格競争力をなくしつつある。このような状況下では、従来に増してユーザー仕様による仕様品あるいは特殊品に重きを置くと同時に、高品質、高精度多品種小ロットおよび短納期志向を強めざるを得ない。多くの企業は、この方向に経営を標榜している。

一方、技術力あるいは提案力あるいは提案力のある企業には、今まで培ってきた圧造技術、転造技術や切削技術などの精密加工技術を活かして、ねじ以外のパーツ部品への売上の拡大を図っている企業も見られる。

ただ、平成16年の不安材料は、原材料である線材の値上げの価格転嫁が解決されていないのに、更なる値上げを価格に転嫁することができるかどうか、当業界の最大の不安材料となっている。

(中 川)

ねじ生産の推移（全国）

（百万円）

	重 量		金 額	
	（トン）	対前年比 （％）		対前年比 （％）
平成10年	2,467,645	-10.6	628,229	-16.6
平成11年	2,434,158	-1.4	623,090	-0.8
平成12年	2,603,670	7.0	663,085	6.4
平成13年	2,507,435	-3.7	623,730	-5.9
平成14年	2,531,413	1.0	629,271	0.9
平成15年	2,605,776	2.9	647,920	3.0

資料：社団法人日本ねじ工業協会「会報ねじ」2004 No.2

鉄鋼製ねじ輸出の推移（全国）

（億円）

	重 量		金 額	
	（トン）	対前年比 （％）		対前年比 （％）
平成10年	153,347	-12.5	1,275	-8.9
平成11年	158,707	3.5	1,234	-3.3
平成12年	173,557	6.0	1,397	13.2
平成13年	163,703	-5.7	1,355	-3.0
平成14年	182,770	11.6	1,521	12.3
平成15年	198,620	8.7	1,553	2.1

資料：財務省貿易統計

鉄鋼製ねじ輸入の推移（全国）

（億円）

	重 量		金 額	
	（トン）	対前年比 （％）		対前年比 （％）
平成10年	72,422	-16.4	316	-2.3
平成11年	92,584	27.8	294	-7.0
平成12年	111,898	20.8	326	10.8
平成13年	124,743	14.5	384	17.8
平成14年	127,253	2.0	384	0.0
平成15年	152,645	20.0	427	11.2

資料：財務省貿易統計

台湾、中国からのねじ輸入

（億円）

	台湾から		中国から	
	ト ン	億 円	ト ン	億 円
平成10年	31,705	66	23,009	48
平成11年	40,816	70	34,010	56
平成12年	48,022	84	43,985	70
平成13年	50,366	93	51,657	81
平成14年	47,342	92	60,074	90
平成15年	55,367	110	74,545	114

資料：財務省貿易統計